

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年9月21日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 経営訪問研修会の開催

揖斐地区指導農業士会において、会員の経営を学び情報交換を行う経営訪問研修会が9月6日に開催され、関係者も含め13名が参加した。

今回は大野町でいちご経営を行う指導農業士の育苗ハウスを訪問し、いちご経営の概要を聞くとともに、いちご苗の栽培状況などを視察した。出席者から積極的な質問があり、作物による防除方法の違いや労働力確保など有意義な情報交換の場となった。

農業普及課では引き続き指導農業士と連携しながら活動を支援していく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■大豆 種子生産ほ場審査を実施

9月12日に大野町、池田町の大豆（品種：フクユタカ）種子ほ場で、開花期ほ場審査を農業普及課とJAいび川と協力して行った。今年は7月下旬頃の播種後しばらく降雨がなく、一転、8月中旬には豪雨がありその影響が懸念されたが、生育は概ね順調だった。今後は、11月に成熟期のほ場審査を行い、収穫後、生産物審査（発芽試験）を経て、来年作の種子として利用される予定である。

大豆種子は、大野町採種圃生産組合と池田町の農業法人により約31haで生産されており、農業普及課では引き続き安定生産に向けた栽培管理を支援していく。



【ほ場審査の様子】

■かき 西村早生出荷目揃え会の開催

9月2日に、大野町かき振興会主催の「西村早生」出荷目揃え会が開催された。「西村早生」は県内で一番早く出荷される品種で、約50名の生産者が栽培している。

振興会員により出荷規格、出荷における注意点等説明があり高品質なかきの出荷に向けて、改めて会員に対する意識付けを行った。

農業普及課からは生育や病虫害情報を提供し、これからの栽培管理について指導を行った。

9月4日には、初共選が行われ、約150kgが出荷された。今後品種リレーがされ、12月中旬までかきの出荷が続く。



【目揃え会の様子】

■茶 和紅茶の官能評価～国産紅茶グランプリに出品～

(有) サポートいびでは、新たな茶需要の開拓を目指し、和紅茶の生産に取り組んでいる。8月23日にこの和紅茶の官能評価が生産者や関係機関により行われた。農業普及課は、試験茶製造とともにISO3103に基づく官能評価法について指導支援した。また、産学官連携で試験中の害虫加害茶葉を利用して蜜香発揚を目指した紅茶も併せて評価した。

官能評価で優れた上位3点は、国産紅茶グランプリ2023(尾張旭市観光協会主催)に出品し、10月に結果が発表される。



【官能評価の様子】

■加工業務用キャベツ 揖斐郡全域で生育状況確認

揖斐管内では、加工業務用キャベツの栽培に取り組んでおり、約7haの作付けが予定されている。9月14日に定植状況等の確認のため、JAいび川、JA全農岐阜、農業普及課が連携し、現地巡回調査を実施し、生育量、病虫害発生状況、作柄の予測を行った。巡回後は関係機関で情報共有し、今後の栽培管理や出荷計画に生かしていく予定で、引き続き定期的に現地巡回調査をしていく。



【キャベツの生育調査】

■いちご データ駆動型農業の実践に向けて

岐阜県では、県内4地域のいちご産地で環境測定装置を活用したデータ駆動型農業の実践・展開支援事業に取り組み始めた。揖斐管内では、いちご生産者3名がこの事業に参加し、9月21日に環境測定装置を定植直後のほ場に設置した。これからハウス環境のデータや生育調査等を実施しながら、データ分析し、栽培改善に繋げていく。



【設置の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■徳山なんば 加工品の研究を実施

8月25日に徳山なんば振興協議会の女性会員を中心に新商品の開発に向けて試作研究を行った。加工品2品、料理メニュー3品を作り、商品化について検討した。試作品の中で利用できそうなものは、道の駅のレストランや加工事業者等に情報提供を予定している。

現在、徳山なんばの新商品は徐々に増えており、8月末に激辛のあられ「辛旨地獄」が開発され、谷汲で販売開始された。農業普及課では、今後も地域での認知が深まるよう商品づくりに向けて、加工品の情報提供や加工支援、商品PRなどを支援していく。



【検討の様子】